

令和7年 4月21日

保護者の皆様へ

人間環境大学附属岡崎高等学校

校長 横山 博文

学校（校長）便り 「花便り」第1号 の発行について

晩春の候、保護者の皆様におかれましては、ご清栄のことと存じ上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、標題の件につきまして、今年度より校長の私より、月に1回程度（不定期）学校の様子を保護者の皆様にお伝えさせていただきたく、私の大好きな花の便りに寄せて、生徒の皆さんにもそれぞれの花を咲かせてもらいたいと強く願いつつ、学校便りを発行することと致します。校長の視点で見た学校の様子、生徒の様子をお伝えできればと思っております。今の時代、常に情報は溢れていますが、本当に必要な情報は何か。学校は生徒、保護者、教職員で構成されている場所です。この三者にとって、必要かつ有益な情報共有の場となることを願っております。

花便り 第1号

4月、コブシやハクモクレンに続いて桜が散ってしまいましたが、校内はドウダンツツジの小さな白い花がほのかな甘い香りを放っています。これからはフジの花、ヤマブキ、ヤマボウシなど、山に咲く花々が見ごろを迎えます。さらに校舎の裏手では、この時期ひっそりと、仏花であるシキミの大木が、満開の薄い黄緑の花を咲かせています。また、学校の周囲にあるたくさんのツツジのつぼみに赤や白の色がつき始め、花が終わったビワには早くも実が膨らみかけています。色とりどりの花と、生命力あふれる植物の息吹を強く感じられる今日この頃です。

すでに在校生の皆さんには、4月7日の始業式において、校長交代の件について話をしました。保護者の皆様には遅くなってしまい申し訳ございませんでしたが、改めて、本年4月より校長職に就任いたしました、横山 博文（よこやま ひろふみ）と申します。昨年までは副校長の職にありました。昨年度までの鈴木校長の後を受け継ぎ、伝統ある本校の更なる発展のため、尽力してまいります。

さて、今回の便りでは、私から新入生の皆さんに送った入学式の式辞を掲載させていただきます。本校がこれから始まる学校改革をどのように進め、どのような生徒を育てていこうとしているのか。学校方針を含め、方向性や求めるものについて述べております。今年度からの学校づくりのビジョンを、ご理解いただけるのではないかと考えております。やや長文であるため恐縮ではありますが、ご一読賜りますようお願い申し上げます、第1号の花便りとさせていただきます。

式辞

桜の花が満開を迎え、春の心地よさに満たされるなか、ただいま、244名の入学を許可しました。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。教職員・在校生一同、心から皆さんを歓迎いたします。また、本日はご多用の中、人間環境大学学長 牧山助友様、PTA 会長 押川 秀樹様をはじめとする多くの PTA 役員の皆様に来賓としてご臨席を賜りましたこと、高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございます。また、保護者の皆様におかれましても、本日の入学式を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。ここに至るまでのことを思うと、感慨ひとしおのことと存じ上げます。誠におめでとうございます。

さて、新入生の皆さん、皆さんは今の日本をどのように捉えているのでしょうか。あるいは、世界をどのような目でみているのでしょうか。日々駆け巡るニュースは、明るい話題もあればそうでないものもあります。グローバルな時代に生きる私たちは、否が応でも、日本国内の問題だけではなく、世界が抱える課題とも向き合わざるを得ない現実直面しています。地球温暖化に代表される気候問題、今が本当に 21 世紀なのかと目を疑ってしまうような戦争や地域紛争、貿易問題や記憶に新しいコロナに象徴される感染症問題など、人類が直面する課題は、日に日にその数を増しているようにさえ見えます。

人類は、19 世紀の産業革命以降、物質的な豊かさを追求してきましたが、本当の意味での豊かさと幸福を手に入れたのでしょうか。このような世界の中で、10 代の若者が自分の生きる意味は何かと問いかけ、答えを見出すのは至難の業といえるのかもしれませんが。

今ほど、価値観の多様性の名のもとに、却って生きづらさを感じる社会はなかったようにも思えます。生きる意味や目的を見つけにくく、日本人の 10 代若者の自己肯定感、OECD 加盟国中、最も低いレベルともいわれて久しいのが実態です。

このような時代に生きる皆さんが、少しでも自己肯定感を増し、自分に自信をもって人生を生きていく人になってほしいという願いを込めて、本校では学校改革を推進し、大きく変化しようとしています。

それは、先程皆さんが入ってきた校舎入口の頭上にボードで貼ってある、本校の学校方針である「全ての生徒が幸せに 自己を肯定し 挑戦する人に」という言葉に象徴されています。私たち教師が様々な教育活動を通して、生徒の皆さんの将来を考えた結果、辿り着いたフレーズがこの言葉でした。本校での 3 年間をどのように過ごして欲しいのか、私たち教師が生徒の皆さんと日々接する時の想いと、理解してください。皆さんは自分が何をしたいのか、そのためには何をすべきなのか、本当の答えは自分が持っているはずです。

そう、答えはいつも自分の中にあるのです。その声に耳を傾け、努力する皆さんを私たちは全力でサポートします。どれほど厳しい社会であっても、一人一人が幸せをつかみ取ってもらいたい、その力を身に着ける 3 年間であってもらいたいと、強く願っています。

特進コースの皆さん、リアルドラゴン桜プロジェクトで、進学に対するモチベーションをアップさせて、思いっきり勉学に励んでみてください。できる自分を実感するはずです。進学コースの皆さん、シン探究の時間で、自分が何をしたいのか、見つける努力をしてみてください。目標を持った人生ほど、幸せな人生はありません。スポーツ進学コースの皆さん、文武不岐、アスリートである皆さんだからこそ辿り

着くことができる世界が、そこにはあるはずです。各コース皆さんの活躍に期待しています。

最後に、今を満開と咲き誇る桜についてのお話しです。今まさに満開を迎えた桜の花が、いつからその準備を始めたか、皆さんは知っていますか。一見、急に咲き始めたかに見える桜も、実はその準備を始めたのは、1年で最も寒いと言われる1月下旬からの大寒の時期だと言われています。「600度の法則」と呼ばれ、寒さ厳しい2月1日をスイッチとしてその日を起点に、そこから毎日の最高気温を足して600度に達した時が開花の日になる、という法則です。

この法則の中で私たちが気付くべきことが2つあります。1つは2月1日頃入ると言われるスイッチの正体は厳しい冬の寒さであること、その後、約2ヶ月にわたる準備の期間があって開花を迎える、ということです。開花のためにはスイッチと準備の期間が必要というのは、まさに私たち人間にも当てはまることであり、特に学校という場所は課題や試験、部活動に象徴されるスイッチと、準備を共にする友人がいる、という意味で、その気になれば自分の花を咲かせやすい場所でもあるといえます。そのことに、是非、新入生の皆さんも気づき、目覚めてください。きっと今までとは違った、目の前の課題に対する向き合い方ができるはずです。保護者の皆様、私たちは立場は違えど、子供の成長を願いそのために時間とエネルギーを使うという、目的と手段を同じくする存在です。

家庭でも学校でもスイッチの入る機会と準備をする子供たちを導き、見守ることに力を合わせてまいりましょう。3年後、一人もかけることなく、この場で自分にしか咲かせることのできない満開の花を咲かせたお子様たちと一緒に、再びお会いできることを祈念し、式辞といたします。

令和七年 四月 八日

人間環境大学附属岡崎高等学校 校長 横山博文